

9800



昭和十九年十月二十六日

偵察第三飛行隊戦闘詳報

自昭和十九年十月十日
至昭和十九年十月二十六日

台湾沖並三井島沖敵機動部隊索敵

第二航空艦隊
第四海軍航空隊
偵察第三飛行隊

20. 3. 19
枚

一、計画

自昭和十九年十月十日
至昭和十九年十月二十日
台灣沖並菲島沖敵機動部隊索敵

（一）任務企圖

（1）艦隊編制
第二航空艦隊附屬第一海軍航空隊偵察第三飛行隊
第六基地航空部隊西部第一空襲部隊伊部隊

（二）任務企圖

十月十日敵機動部隊台灣沖總方面ニ出撃シ来リ艦載機多数
各基地ニ米襲ス第六基地航空部隊ハ此ノ敵ヲ徹底的ニ殲滅スベク
偵察第三飛行隊ハ其ノ一部ヲ延縄小祿基地ニ進出セシメ残部ハ
鹿屋基地ヨリ戦況ノ發展ト共ニ台灣或ハ菲島ノ前進基地ヨリ此
ノ敵機動部隊ヲ索敵啗成ヲ實施ス。

（三）作戰準備（特ニ準備セル兵力、兵器）

（1）兵力 二式艦偵 一型 一機
一型 五機

搭乗員

A 級 三組
B 級 三組
C 級 五組

一六空三號無線導投工力位測正機
九六式空三號無線通信機
九六式之輕固定機
九二式之輕固定機
九二式之輕固定機

一七三〇	鬼界島離陸
一八二〇	一番機底屋基地帰投
一八四〇	二番機底屋基地帰投
十月十二日 〇七〇〇	FGP命令ニヨリ索敵ノ為ニ機底屋基地發進 燃料補給ノ為ニ機底屋基地降着 機底屋基地發進終ルニ至ルニ未帰還 基點ノ機底屋基地進出距離四〇〇哩 針路不詳
十月十三日 〇七〇〇	FGP命令ニヨリ索敵ノ為ニ機底屋基地發進 燃料補給ノ為ニ機底屋基地降着 機底屋基地發進終ルニ至ルニ未帰還 基點ノ機底屋基地進出距離四〇〇哩
一三〇〇	小隊基地發進終始連絡ナリ未帰還
十月十五日 〇六三〇	FGP命令ニヨリ索敵ノ為ニ機大岡山基地離陸 基點ノ機底屋基地針路六〇度進出距離四五〇哩 例程左折六〇度 帰投敵ヲ見ズ
一三〇〇	帰投敵ヲ見ズ

十月十九日 一〇〇〇	命今三ツリ宗敵ノ為一機太蘭山基地離陸 其點 爲島鼻 針路一五五度 直距離三〇哩 側程左折六〇度 帰投敵ヲ見ズ
十月二十日 〇八〇〇	命今三ツリ非島東方索敵ノ為二機太蘭山基地離陸 一番機二番機發動機不調ノ為折返ス 三番機發進 其點 爲島鼻 針路一七〇度 六〇哩三ツリマニラ ニルス基地着敵ヲ見ズ
十月二十五日 〇四三〇	命今三ツリ索敵ノ為一機第一ニルス基地發進 其點 第一ニルス 針路九〇度 直距離三〇哩 側程左折五〇度 帰投敵ヲ見ズ
十月二十六日 一三〇〇	命今三ツリ索敵ノ為一機發進 第一ニルス→ラモ→マニラ→サバノ→第一ニルス 敵機動部隊並敵艦載機多数ヲ發見セルマニラノ為兵力不明
一六〇〇	帰投

行動圖（不詳）

三功績

功績

141
T3

十月十日 索敵機

沖繩方面ニ米機中、敵機動部隊ヲ發見シ敵機天候等ニ依リ障礙ヲ排除シ其ノ

全貌ヲ明カニシタル、爾後ノ台灣沖航空作戦ニ寄與セル所甚ク大ニシテ功績極大

顯著ナリト認ム

十月十二日

十月十三日

十月十七日

十月十九日

十月二十五日

索敵機

敵機動部隊ヲ發見シ、其ノ多ク、大ニ困難ヲ冒シ、哨戒索敵任、從事ス、其ノ作戦、果實スル所大ニシテ

功績大ナルモノト認ム

十月二十六日 索敵機

味方艦隊ニ對シ敵艦載機、及復來襲、其ノ敵空母ノ位置不明ナリ、状況下ニ發進スル敵

空母群ヲ發見、悪天候、為敵兵カラ明カニスルヲ得ザリシ、爾後、特攻ヲ數テニ費スル

所甚大、其功績極大ナルモノト認ム

(二) 編制表塔萊割

〔記事〕

台湾沖並ニ非島沖作戦關係資料ハ一四一(空挺バン)
 ニアリ當時状況不明ニ付搭乗員ノ記憶セル所ニヨリ作製
 ス。
 尚偵察第三飛行隊小隊派遣遺隊ニ関スル戦闘詳報ハ南西諸島
 空軍提出セル等ニ付為念

終

191